

育種カラマツの優秀性

問 採種園からとれるカラマツは育種によって改良されたものとききましたが，何がどの程度改良されているのでしょうか。 (置戸町，Nさん)

答 採種園からとれたタネを育てたカラマツと普通のカラマツとを区別するために，採種園産のものを育種カラマツと呼んでいます。この育種カラマツの成績については全道各地に設定した精英樹次代検定林で検定を進めています。これまでのところ，生長や幹の通直性についてその優秀性がわかってきましたので，それらのことについてお話しします。

まず，生長についてみると，検定林によって幅はありますが，林齢5年の育種カラマツの平均樹高は，育種されていない普通のカラマツ（以下在来種という）よりも2%から20%ほど優れています。また，林齢10年を迎えたいいくつかの検定林でもほぼ同様の結果です。さらに，育種カラマツの中でも，樹高は家系によって大きく異なります。林齢5年の樹高について，在来種に対する各家系の樹高比の頻度分布を図-1に示します。大部分の家系は在来種よりも良い成績で，中には25%以上も良い生長をする家系があります。在来種よりも不良な家系については，その母樹を採種園から除く計画です。そうすれば，育種カラマツの生長はさらに優れたものになるでしょう。

次に幹の通直性について述べます。林齢6年の育種カラマツと在来種との曲がり度別本数割合を図-2に示します。曲がりの程度は曲がり度の数値が小さいほど軽微になり，曲がり度1はほぼ通直なことを意味します。育種カラマツと在来種の曲がり度1の本数割合は，それぞれ35%，15%で，両者の差は20%でした。育種カラマツは幹の通直性についても改良されているのです。育種カラマツで曲がり度3の個体のうち，大部分のものは特定の家系に限られていることから，生長の場合と同様に，採種園から不良母樹を除くことで通直性もさらに良くなるでしょう。

ここで紹介した成績は若齢期での結果ですが，採種園からとれる育種カラマツは，大径材生産あるいは伐期の短縮，材の品等，製材歩留まり等に有利と考えられます。(育種科 黒丸 亮)

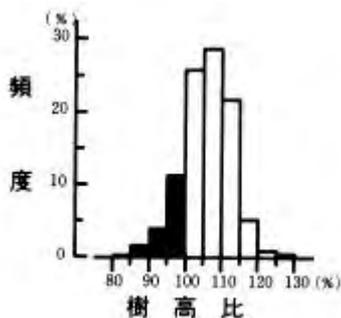


図-1 育種カラマツ各家系の在来種に対する樹高比の頻度分布 (林齢5年)

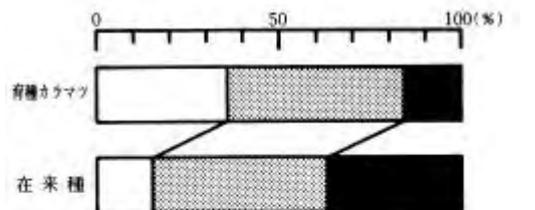


図-2 育種カラマツと在来種の曲がり度別本数割合 (林齢6年)

- : 通直なもの (曲がり度1)
- ▨: 曲がりはあるが、将来回復が期待できるもの (曲がり度2)
- : 曲がりが大きく、将来も欠点として残ると考えられるもの (曲がり度3)